

鹿児島空港将来ビジョン【骨子案】

第1章 ビジョン策定の趣旨

- (1) ビジョン策定の趣旨 (2) ビジョンの位置付け

第2章 鹿児島空港の現状と空港・航空業界を取り巻く環境変化

- (1) 鹿児島空港の現状
(2) 空港・航空業界を取り巻く環境変化
- ① 航空技術の革新と新たな航空需要
 - ② 交流人口の拡大と訪日外国人観光客の増加
 - ③ 空港と地域間競争
 - ④ 労働力人口の減少と航空産業・空港経営
 - ⑤ 空港に求められる多面的役割

第3章 鹿児島空港の将来像

- 鹿児島空港の機能強化に求められる視点
- 鹿児島空港の目標

《数値目標》

- ・ 2030年乗降客数 730万人（国内線589万人，国際線141万人）
- ・ 2050年乗降客数 830万人（国内線600万人，国際線230万人）

《具体的内容》

- ・ 国内外の多様な空港利用者に対する高い満足度と利便性
- ・ アジアを中心とする海外都市や国内主要都市及び県内離島とを結ぶ多様な航空ネットワーク
- ・ 国内外の観光客が利用する日本の南のゲートウェイ
- ・ 最先端の技術やノウハウの導入による効率的運用が可能な航空会社の拠点空港
- ・ 物流や輸出入，航空関連産業等の地域経済振興拠点であり，災害対応の拠点

第4章 施策展開の方向性

- (1) 訪日外国人観光客の需要獲得に向けた戦略の推進
- ・ 戦略的なエアポートセールスの展開
 - ・ 離島航空路線の充実と離島観光の振興
 - ・ 広域観光の促進による空港利用者の獲得
- (2) 新たな航空需要に対応した施設・体制整備
- ・ LCC／リージョナルジェット／ビジネスジェット向けの受入体制整備
 - ・ 駐機スポット及びPBB等の運用改善及び整備
- (3) 鹿児島空港の魅力を増す機能の強化・充実
- ・ 利用者の利便性向上に向けた取組
 - ・ 航空会社の効率的運用に向けた取組
 - ・ 空港間競争のための差別化に向けた取組
- (4) 地域における多面的な「拠点性」向上
- ・ 航空会社の拠点空港機能の向上
 - ・ 輸出入・物流機能の向上
 - ・ 災害対応機能の向上
 - ・ 「地域の拠点性」に対する県民の理解促進

第5章 鹿児島空港将来ビジョンの実現に向けて

- (各主体の役割，推進体制 等)